

助産診断・技術学

妊娠期の助産診断・技術学

分べん期の助産診断・技術学

産じょく期の助産診断・技術学

新生児期の助産診断・技術学

分べん介助技術

妊娠期の指導技術

産じょく期の指導技術

母児救命

臨床判断演習

ウイメンズヘルスケア

科目名	妊娠期の助産診断・技術学		科目責任者	山本 智美	
単位	1 単位（30 時間）		開講期	前期	
ディプロマポリシー	☐ 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 ☐ 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 ☐ 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 ☒ 6 専門職として常に自己の課題を見出し、追及していくことができる。				
科目の概要	・ 妊娠期の生理、心理・社会的変化や妊娠に関連した検査データを理解し、助産診断の基礎を学ぶ。 ・ 妊娠期に必要な助産技術の基礎を習得する。 ・ 妊娠期の異常について理解し、助産診断の基礎について学ぶ。 ・ 妊娠期の正常経過、異常時の支援についてわかる。				
到達目標	1 妊娠期の生理、心理・社会的変化や妊娠に関連した検査について理解する。 2 妊娠期の健康を維持しセルフケア能力を高めるケアについて理解する。 3 妊娠期の対象とその家族に対する支援について理解する。 4 ハイリスク妊娠、異常妊娠の妊婦への支援について理解する。 5 事例を通して妊娠期の助産診断過程の展開ができる。 6 超音波画像診断の原理および使い方が理解できる。				
講義計画	回数	講義内容		担当教師	
	1	妊娠の生理、妊娠期のフィジカルアセスメント		山本智美	
	2	妊娠期の日常生活行動、妊婦と家族の心理・社会的側面			
	3				
	4	妊娠期に用いられる検査法・超音波断層装置の操作方法		岩崎真也	
	5				
	6	妊婦への支援・運動		山本智美	
	7				
	8	ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦の支援			
	9	妊娠期の助産診断			
	10	妊娠期のアセスメントと助産診断（事例展開）			
	11				
	12	妊娠期の異常のアセスメントと助産診断（事例展開）			
	13				
	14	流産を経験した妊婦と家族への支援（グリーフケア）			
	15	筆記試験			
評価方法	筆記試験（山本 100 点）				
指定図書	・ 我部山キヨ子、武谷雄二編：助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期、医学書院 ・ 我部山キヨ子編：助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学、医学書院 ・ 我部山キヨ子、大石時子編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院 ・ ・ 日本助産診断実践学会編：実践マタニティ診断 第5版、医学書院 ・ 竹村秀雄編：助産師外来で役立つ超音波検査ガイドブック、メディカ出版 ・ 産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023、日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会				
参考図書	・ 森恵美編：助産師基礎教育テキスト第4巻 妊娠期の診断とケア、日本看護協会出版会 ・ 小林康江編：助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会 ・ 立岡弓子編：周産期ケアマニュアル 第3版、サイオ出版				

参考図書	中根直子、馬目裕子、宮内彰人監修：新訂第2版 写真でわかる助産技術アドバンス、インターメディカ
事前・事後 学習	・女性生殖器の解剖や、妊娠の生理等の基礎知識を復習して講義に臨んでください。 ・妊娠期のケアの根拠となる助産診断を身につけてください。
その他 (ICTの活用)	医学書院 eテキストを使用します。

科目名	分べん期の助産診断・技術学		科目責任者	深澤 絵里	
単位	1 単位（30 時間）		開講期	前期	
ディプロマポリシー	☐ 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 ☐ 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 ☐ 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 ☒ 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。				
科目の概要	・ 分娩の生理、産婦の心理社会的変化を理解し、分娩各期における助産診断の基礎を学ぶ。 ・ 分娩期の異常について理解し、助産診断の基礎について学ぶ。 ・ 分娩期の正常経過・異常時の支援についてわかる。				
到達目標	1 分娩の生理を踏まえ、母体及び胎児の正常な分娩経過と分娩進行に伴う変化を理解する。 2 正常経過にある産婦の各期のアセスメントができる。 3 正常な分娩経過をたどるための産婦と家族への支援について理解する。 4 分娩期における異常および正常からの逸脱とその支援の方法を理解する。				
講義計画	回数	講義内容		担当教師	
	1	分娩の生理、分娩期のフィジカルアセスメント		深澤絵里	
	2	分娩期の心理的・社会的変化			
	3	胎児モニタリングの診断		河村隆一	
	4				
	5	産婦への支援		深澤絵里	
	6				
	7	ハイリスク分娩・異常分娩時の支援			
	8	分娩期の助産診断			
	9	分娩期のアセスメントと助産診断（事例展開）			
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15	筆記試験			
評価方法	筆記試験（深澤 85 点、河村 15 点）				
指定図書	・ 我部山キヨ子、藤井知行編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期、 医学書院 ・ 石川紀子、中川有加編：THE 分娩—ビジュアルで学ぶ 生理学・助産診断・分娩介助のすべて、 MC メディカ出版 ・ 中根直子、馬目裕子、宮内彰人監修：新訂第 2 版 写真でわかる助産技術アドバンス、インターメディカ ・ 日本助産診断実践学会編：実践マタニティ診断 第 5 版、医学書院 ・ 日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第 6 版、医学書院 ・ 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023、 日本産婦人科学会 ・ 中井章人著：図説 CTG テキスト、メジカルビュー社 ・ 我部山キヨ子、大石時子編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院				

参考図書	・町浦美智子編：助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会 ・小林康江編：助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会 ・進純郎著：分娩介助学 第2版、医学書院
事前・事後 学習	母性看護学の知識・技術は理解している前提で講義は進行します。母性看護学で学習したことを復習し、基礎的な知識を十分に理解して臨んでください。 助産診断の講義は、実践マタニティ診断を読み、授業に参加してください。 実習で実践力の基礎となる学習です。分娩期の経過を理解し、診断やケアの根拠となる基本的知識を身につけてください。
その他 (ICT の活用)	医学書院 e テキストを使用します。

科目名	産じょく期の助産診断・技術学		科目責任者	深澤 絵里
単位	1 単位（30 時間）		開講期	前期
ディプロマポリシー	☐ 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 ☐ 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 ☐ 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 ☒ 6 専門職として常に自己の課題を見出し、追及していくことができる。			
科目の概要	・産褥の生理、産褥期の心理・社会的変化を理解し、産褥期の助産診断の基礎を学ぶ。 ・産後の日常生活の支援、家族計画の支援社会復帰の支援、育児支援の具体的方法を学ぶ。 ・産褥期の異常について理解し、助産診断の基礎について学ぶ。 ・産褥期の正常経過・異常時の支援についてわかる。			
到達目標	1 産褥の生理、産褥期の心理・社会的変化について説明できる。 2 産褥期にある対象やその家族への支援について説明できる。 3 産褥期の助産診断の目的と視点を理解し、助産診断過程を展開できる。 4 産褥期の異常やハイリスク状態の判断ができ、必要な支援を説明できる。 5 産後の避妊の必要性和種類や方法を説明できる。			
講義計画	回数	講義内容		担当教師
	1	産褥期の身体的変化と心理・社会的変化		大村友紀恵
	2	褥婦への支援		
	3	乳汁分泌の機序と乳房管理・診断		富岡ほなみ
	4	授乳方法と母乳育児支援		
	5	出産後から退院までの褥婦のケア 退院から産後 1 か月健康診査までのケア		大村友紀恵
	6	産後の避妊の必要性和種類		
	7	産後の避妊法の実際		
	8	ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援		
	9	健康に障害のある児を持つ褥婦と家族への支援 ペリネイタルロスを経験した褥婦や家族のグリーフケア		
	10	産褥期の助産診断 産褥期のアセスメントと助産診断（事例展開）		深澤絵里
	11	産褥期のアセスメントと助産診断（事例展開）		
	12			
	13			
	14	産褥期のアセスメントと助産診断（事例展開） 産後 2 週間健診・産後 1 か月健診のアセスメント		大村友紀恵
	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験（富岡 25 点、大村・深澤 75 点）			
指定図書	・堀内成子、片岡弥恵子編：助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ、医学書院 ・我部山キヨ子、藤井知行編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期、医学書院 ・日本助産診断実践学会編：実践マタニティ診断 第 5 版、医学書院 ・日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023、日本産婦人科学会 ・我部山キヨ子・大石時子編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院			

参考図書	・江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア、 日本看護協会出版会 ・小林康江編：助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、 日本看護協会出版会
事前・事後 学習	母性看護学の知識・技術は理解している前提で講義は進行します。母性看護学で学習したことを復習し、基礎的な知識を十分に理解して臨んでください。 助産診断の講義は、実践マタニティ診断を読み、授業に参加してください。 実習で実践力の基礎となる学習です。診断やケアの根拠となる基本的知識を身につけてください。
その他 (ICT の活用)	※7は受胎調節実地指導員認定講習の基準内容 医学書院 e テキストを使用します。

科目名	新生児期の助産診断・技術学		科目責任者	池村 さおり
単位	1 単位（30 時間）		開講期	前期
ディプロマポリシー	☐ 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 ☐ 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 ☐ 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 ☒ 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。			
概要	・ 新生児の生理を理解し、新生児期の助産診断の基礎を学ぶ。 ・ 新生児期の異常について理解し、助産診断の基礎について学ぶ。			
到達目標	1 新生児の適応生理およびその異常を理解し、支援方法を理解できる。 2 事例を用いて新生児の助産診断過程を展開できる。 3 ハイリスク新生児の病態を学び、NICU におけるケアについて理解できる。 4 出生直後と新生児のケアを学び、演習で実践できる。			
講義計画	回数	講義内容		担当教師
	1	新生児・乳幼児のケアの基本		池村さおり
	2			
	3			
	4	早期新生児のアセスメントとケア		中山真紀子
	5	新生児の異常		
	6	新生児の異常とケア		
	7	新生児のアセスメントと助産診断		池村さおり
	8			
	9			
	10	NICU の看護（低出生体重児・早産児のケア）		塚田可奈子
	11	産後 2 週間健診（児）・生後 1 か月健診のアセスメント		池村さおり
	12			
	13			
	14	新生児のケア（演習）		
15	筆記試験			
評価方法	筆記試験（池村 100 点）			
指定図書	・ 石井邦子、廣間武彦編：助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 医学書院 ・ 中根直子、馬目裕子、宮内彰人監修：新訂第 2 版 写真でわかる助産技術アドバンス、インターメディアカ ・ 日本助産診断実践学会編：実践マタニティ診断第 5 版、医学書院 ・ 我部山キヨ子・大石時子編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院			
参考図書	・ 江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト第 6 巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア、日本看護協会出版会 ・ 小林康江編：助産師基礎教育テキスト第 7 巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会 ・ 産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023、日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会 ・ 櫛引美代子著：写真で学ぶ 新生児の観察と看護技術、医歯薬出版株式会社			
事前・事後学習	母性看護学の知識・技術は理解している前提で講義が進行します。母性看護学で学習したことを復習し、臨んでください。 根拠となる基本的知識を使い助産診断をたてケアを考えていきます。実習で実践できるよう学びましょう。			

その他 (ICT の活用)	医学書院 e テキストを使用します。
------------------	--------------------

科目名	分べん介助技術		科目責任者	深澤 絵里
単位	1 単位（30 時間）		開講期	前期
ディプロマポリシー	☐ 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 ☐ 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 ☐ 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 ☐ 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 ☒ 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。			
科目の概要	・「分娩期の助産診断・技術学」の講義で学んだ理論や原理を活かし、安全で安楽な分娩介助技術を習得する。			
到達目標	1 原理に基づいた分娩介助技術を修得できる。 2 分娩介助技術を正しい手技で修得できる。 3 安全性を考慮した分娩介助技術を修得できる。 4 分娩に伴う軟産道、会陰部の損傷に対する知識や縫合術の基本を理解できる。			
講義計画	回数	講義内容		担当教師
	1	分娩介助の目標と準備、正常分娩助法		深澤絵里
	2	正常分娩助法、胎児付属物の検査と計測		
	3	分娩台操作、必要物品の準備、機械セットの開封		
	4			
	5	ガウンテクニック、外陰部洗浄、清潔野の作成、吸引準備		
	6			
	7	正常分娩の技術と機転		
	8			
	9	内診の技術と分娩後の観察		
	10	会陰切開と縫合の技術		
	11	入院～分娩後の創部の確認		
	12			
	13			
	14			
	15	技術試験		
評価方法	技術試験（深澤 100 点）			
指定図書	・我部山キヨ子、藤井知行編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 医学書院 ・中根直子、馬目裕子、宮内彰人監修：新訂第 2 版 写真でわかる助産技術アドバンス、インターメディカ ・石川紀子、中川有加編：THE 分娩—ビジュアルで学ぶ 生理学・助産診断・分娩介助のすべて、MC メディカ出版			
参考図書	・進純郎著：分娩介助学 第 2 版、医学書院 ・町浦美智子編：助産師基礎教育テキスト第 5 巻 分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会 ・岩田塔子著：体位別フリースタイル分娩助法、MC メディカ出版 ・立岡弓子著：周産期ケアマニュアル 第 3 版、サイオ出版			
事前・事後学習	技術は、原理を理解したうえで、多くの技術練習により身につきます。 自己学習し、上達できるようにしていきましょう。			
その他 (ICT の活用)	医学書院 e テキストを使用します。 演習をビデオ撮影し、振り返りに活かしてください。 技術試験をビデオ撮影し、振り返り・評価の際に使用します。			

科目名	妊娠期の指導技術		科目責任者	山本 智美
単位	1 単位（30 時間）		開講期	前期
ディプロマポリシー	☒ 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 ☐ 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 ☐ 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 ☒ 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。			
科目の概要	・妊娠期に必要な保健指導の指導案や使用する教材を作成し、ロールプレイを行うことで、妊婦にわかりやすい指導技術の基礎を学ぶ。			
到達目標	1 正常を逸脱しないための必要な保健指導・企画・展開ができる。 2 保健指導を理解し、適切なコミュニケーション技術を習得する。 3 ロールプレイを行い、リフレクションを通して効果的な指導方法を検討することができる。 4 メンバー同士で協力し、グループワークを発展的に進めることができる。			
講義計画	回数	講義内容		担当教師
	1	妊娠前期指導グループ討議・発表		山本智美
	2	妊娠中期指導内容決定・指導案グループ討議・指導案作成		
	3	妊娠中期指導案ロールプレイ・質疑応答①		
	4			
	5	妊娠中期指導案ロールプレイ・質疑応答②		
	6			
	7	妊娠後期指導内容決定・指導案グループ討議・指導案作成		
	8	妊娠後期指導案ロールプレイ・質疑応答①		
	9			
	10	妊娠後期指導案ロールプレイ・質疑応答②		
	11			
	12	妊娠期の食事指導プレゼンテーション		
	13			
	14	実習での保健指導実施に関する学びの共有・評価		
15				
評価方法	グループワークへの発表・参加度、リフレクションへの取り組み等総合的評価（100 点）			
指定図書	・我部山キヨ子・武谷雄二編：助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期、医学書院			
参考図書	・堀内成子編：助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ、医学書院 ・森恵美編：助産師基礎教育テキスト第 4 巻 妊娠期の診断とケア、日本看護協会出版会 ・関沢明彦監修：安心すこやか妊娠・出産ガイド 改訂 4 版、MC メディカ出版 ・立岡弓子編：周産期ケアマニュアル 第 3 版、サイオ出版			
事前・事後学習	既習の知識と母親の立場に立った指導について指導の実際をグループで話し合いながら、作り上げていきましょう。			
その他 (ICT の活用)	医学書院 e テキストを使用します。 発表をビデオ撮影し、振り返りに活かしてください。			

科目名	産じょく期の指導技術		科目責任者	池村 さおり
単位	1 単位 (30 時間)		開講期	前期
ディプロマポリシー	☒ 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 ☒ 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 ☐ 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 ☐ 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 ☒ 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。			
科目の概要	・産褥期に必要な保健指導の指導案や使用する教材を作成し、ロールプレイを行うことで、褥婦にわかりやすい指導技術の基礎を学ぶ。 ・受胎調節の実施指導に必要な指導方法の実践を学ぶ。			
到達目標	1 産褥期の特徴や健康課題を理解し、必要となる指導を説明できる。 2 保健指導に必要な指導案や媒体などを作成することができる。 3 ロールプレイを行い、リフレクションを通して効果的な指導方法を検討することができる。 4 メンバー同士で協力し、グループワークを発展的に進めることができる。			
講義計画	回数	講義内容		担当教師
	1	産褥期の保健指導とは		大村友紀恵
	2	産後保健指導（授乳指導、沐浴指導、退院指導）の指導案・媒体・パンフレット作成		
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10	産後の家族計画指導の指導案・媒体・パンフレット作成		池村さおり
	11			
	12	産後保健指導ロールプレイ （授乳指導、沐浴指導、退院指導、家族計画指導）		池村さおり 大村友紀恵
	13			
	14			
15	振り返りと指導案修正		大村友紀恵	
評価方法	作成した指導案、グループワークへの参加状況、ロールプレイ・振り返りへの取り組み、振り返りレポートを総合評価（100 点）			
指定図書	・堀内成子、片岡弥恵子編：助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ、医学書院 ・我部山キヨ子、藤井知行編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期、医学書院 ・石井邦子、廣間武彦編：助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期、医学書院			
参考図書	・江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト第 6 巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア、日本看護協会出版会			
事前・事後学習	各指導案を作成し、ロールプレイにより実際に指導を行う授業です。 産褥期の保健指導は、分べん介助実習Ⅱで実施します。 母親の立場に立ち、わかりやすい指導ができるよう学生間で意見を出し合い、実習で活用できるものを作成しましょう。			
その他 (ICT の活用)	※10、11、12 は受胎調節実地指導員認定講習の基準内容 医学書院 e テキストを使用します。 ロールプレイをビデオ撮影し、振り返りや指導案などの修正に活かしてください。			

科目名	母児救命		科目責任者	山本 智美
単位	1 単位（15 時間）		開講期	後期
ディプロマポリシー	☐ 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 ☐ 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 ☐ 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 ☒ 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。			
科目の概要	・産科救急プロトコールについて学び、母児救命時の助産師の役割について理解する。 ・母体急変時の対応について理解する。 ・新生児蘇生法を修得する。（新生児蘇生法は、「専門コース」（A コース）を取得する）			
到達目標	1 産科における救急時の助産師の役割を説明できる。 2 産科における救急時の対応について説明できる。 3 新生児蘇生法の技術を修得できる。			
講義計画	回数	講義内容		担当教師
	1	産科救急プロトコールとは		根本泰子 畑佳典
	2	全身出産シミュレーターSimMom を使った事例演習		
	3			
	4			
	5	新生児蘇生法「専門」コース（A コース） 講義・演習（認定試験を含む）		中野玲二 中山真紀子
	6			
	7			
	8	筆記試験		山本智美
評価方法	母児救命・NCPR 筆記試験（山本 50 点） 演習グループワーク・行動等総合的評価（50 点）			
指定図書	・日本母体救命システム普及協議会・京都産婦人科救急診療研究会 編著：母体急変時の初期対応 第3版、メディカ出版（根本先生使用） ・細野茂春監修：NCPR 新生児蘇生法テキスト（第4版）、MEDICAL VIEW（中野先生使用）			
参考図書	・我部山キヨ子、藤井知行編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 医学書院			
事前・事後学習	母児救命について、さまざまな立場から講義をしていただく機会です。知識と技術を身につけるとともに支援の意識を高めていきましょう。			
その他（ICT の活用）	演習ではカメラを使用して演習の様子撮影し、振り返りで見る場合があります。			

科目名	臨床判断演習		科目責任者	深澤 絵里
単位	1 単位（15 時間）		開講期	後期
ディプロマポリシー	☐ 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 ☐ 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 ☐ 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 ☒ 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。			
科目の概要	・急速分娩時における状況判断を行うための思考について学ぶ。 ・急速分娩時における分娩介助や間接介助が行う支援方法を演習にて学ぶ。 ・分娩経過中における産婦事例を用い、状況判断ができ支援方法を演習にて学ぶ。			
到達目標	1 助産診断・技術学で修得した知識等をもとに、状況の推測・判断ができる。 2 自身の行った状況判断までの思考過程を表現できる。 3 状況判断をもとに対象に必要な支援ができる。 4 演習や振り返りを通して、自身の思考過程の特徴や偏りなどに気づくことができる。			
講義計画	回数	講義内容		担当教師
	1	分娩時に必要な情報収集と初期診断		深澤絵里
	2	分娩経過中の事例を用いたシミュレーション演習①		
	3	振り返り		
	4	分娩経過中の事例を用いたシミュレーション演習②		
	5	振り返り		
	6	分娩経過中の事例を用いたシミュレーション演習③		
	7	振り返り		
	8	全体振り返り		
評価方法	課題・演習の参加・振り返りの状況・レポート（100 点）			
指定図書	・我部山キヨ子、藤井知行編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 医学書院 ・産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023、日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会 ・石川紀子、中川有加編：THE 分娩—ビジュアルで学ぶ 生理学・助産診断・分娩介助のすべて、 MC メディカ出版 ・日本助産診断実践学会編：実践マタニティ診断 第5版、医学書院			
参考図書	・藤森敬也著：改訂4版 胎児心拍数モニタリング講座、MC メディカ出版 ・中根直子、馬目裕子、宮内彰人監修：新訂第2版 写真でわかる助産技術アドバンス、インターメディカ			
事前・事後学習	・事例を用いて分娩状況の判断力をつける科目です。 ・積極的に意見を出し合い、どのように対応し支援していくのか学びましょう。 ・自己の状況を動画を用いて振り返りを行い、知識・判断力・行動力を身に付けていきましょう。			
その他 (ICT の活用)	演習ではカメラを使用して演習の様子撮影し、振り返りで見るがあります。			

科目名	ウイメンズヘルスケア		科目責任者	池村 さおり
単位	1 単位 (30 時間)		開講期	前期
ディプロマポリシー	☐ 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 ☒ 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 ☒ 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 ☐ 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 ☐ 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 ☒ 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。			
科目の概要	・女性のライフサイクル各期における健康発達課題を理解し、対象を支援するための知識と技術を習得する。 ・次世代につなぐための健康について、母子の生活、食、運動などの医療の視点を学ぶ。			
到達目標	1 女性のライフサイクルの健康課題を理解し、女性の性と生殖に関する支援について説明できる。 2 女性の性と生殖に関する母子の健康を支援するための、母子の栄養や不妊治療、鍼灸医学、骨盤ケア、ベビーマッサージなどの具体的方法について理解する。			
講義計画	回数	講義内容		担当教師
	1	母子と生活環境、母子と嗜好品・薬物		池村さおり
	2	性の行動と機能 (性の分化と発達、性交と性反応、性機能不全と性別違和)		
	3	妊娠期のヨガ		宮城島知弘
	4	母子と栄養 (妊娠期・分娩期・産褥期・離乳食)		大石祐子
	5			
	6	女性のからだと鍼灸医学		玉川圭子
	7	マタニティビクス		上村尚美
	8	不妊治療と看護 (性・不妊へのカウンセリング)		澤野さおり
	9			
	10	人工妊娠中絶をうける女性へのカウンセリング		
	11	妊娠・分娩・産褥期の骨盤ケア (理論と実技)		佐藤めぐみ
	12			
	13	アロマ、タッチケア、ベビーマッサージ (理論と実技)		中村真紀
	14			
15	筆記試験		池村さおり	
評価方法	筆記試験 (大石 20 点、池村 30 点) レポート (玉川 20 点) レポート (澤野 30 点)			
指定図書	・我部山キヨ子、武谷雄二、藤井知行編：助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 医学書院 (池村先生使用) ・我部山キヨ子編：助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学、医学書院 (池村先生・大石先生・玉川先生使用) ・堀内成子、片岡弥恵子編：助産学講座 5 助産診断・技術学 I、医学書院 (澤野先生使用)			
参考図書	・吉沢豊予子編：助産師基礎教育テキスト第 2 巻 ウイメンズヘルスケア、日本看護協会出版会			
事前・事後学習	母子のライフサイクル各期の健康と支援について多方面から学ぶ機会としています。母子が健康に生活していく上での環境や支援について学び、また自ら女性としての健康、身体作りを深めていくきっかけにしてください。			
その他 (ICT の活用)	※ 8 は受胎調節実地指導員認定講習の基準内容 医学書院 e テキストを使用します。			